

何やかや 云うてるうちに 神無月 (平井奇散人)



10月(神無月)かんなづきに入りました。

ニュージャージーも秋本番を迎えとともに、今月1日には子どもたちに前期の通知表を渡し、いよいよ後期の授業が始まります。

上記の絵は秋の七草のイラストです。春の七草は食して楽しみ、秋の七草は見て楽しむとされています。覚え方は、「お好きな服は(おみなえし、すすき、ぎきょう、なでしこ、ふじばかま、くず、はぎ)」などがあるようです。

青空の下 元気一杯

— 幼児部 秋の遠足 —

9月17日(土)、幼児部は遠足を Van Saun County Park で楽しみました。



今年も好天に恵まれ、青空と緑いっぱいの自然を背景に、お友だちやお父さん、お母さんと一緒に楽しい秋の一日を過ごすことができました。

<障害物競走(異年齢ペア)>

午前中の「ゲーム大会」では、どの競技においても子どもたちの歓声が絶えることはありませんでした。

特に、親子競技(ボール運び、じゃんけん列車)や親のみの競技(おちたおちた)では、お子さんの笑顔とともにお父さん、お母さんの一生懸命さが輝いて



<ボール運び(親子競技)>

見えました。

昼食後は、公園内の遊具で思いっきり体を動かして遊び、子どもたちにとって大満足の日 ← <綱引き> でした。



夏休み作品展



— 才能豊かな作品の数々 —

9月10日、北カフェにおいて上記の作品展が父母会主催で開催され、今年も、子どもたちの個性的で創意工夫をこらした力作がたくさん展示されました。

素晴らしい作品の一部をご紹介します。



「あいうえお言葉集め」(幼児部年長)

☆あいうえおの言葉を一つひとつ絵画や工作で作って、1冊の本の形に仕上げました。

(絵や工作の一つひとつを丁寧に仕上げています。作っている間に平仮名を全部覚えてしまったのではないのでしょうか。最後まで一生懸命努力した様子がよく分かる素晴らしい作品です。)



「音の速さから花火までの距離を調べる」(初等部3年)

☆花火を見ていて、「ドーン」という音が聞こえるまでに時間がかかったことを疑問に思ったことが調査のきっかけでした。

(初等部3年生でありながら、音の速さや地図の縮尺を使って実際の距離を計算するという、中学生レベルの内容を、筋道だてて思考していることに感心しました。身近な事柄に疑問を抱き、解決に向けて努力する姿勢は将来の科学者の素質十分です。)

紹介した作品以外でも「花の色を変える」、「温度の実験」、「空気ロケットを遠くに飛ばす秘密」、「住む町マップ」、「せみの観察」、「野菜の芽の観察」等々。

補習授業校の子どもたちの才能の豊かさを垣間見た作品展でした。来年はどんな作品と出会うことができるのでしょうか。

今から楽しみです。



プログラミング教育？

文部科学省は、情報技術が飛躍的に進化する中、コンピューターを制御する能力の育成が重要と判断し、小学校でのプログラミング教育の必修化を検討すると4月19日に発表しました。

具体的には、2020年から実施される新学習指導要領において、小学校では、理科や算数といった今ある教科の中に盛り込むことを検討しています。

<中・高では>

現在、中学では2012年より「技術・家庭」の「プログラムによる計測・制御」の単元で、プログラミングについて教えていますが、動画づくりなど新しい内容を追加する予定です。



また、高校では選択科目として扱っているため、全体の2割程度の生徒しか学んでいません。そのため、新学習指導要領では必修科目の学習項目に入れる方針です。

<背景>



海外ではすでに初等教育段階で必修にしている国がイギリス、ロシア、ハンガリー等、数多くあり、米国もオバマ大統領が重要性を訴え(2015年12月10日)、向こう3年間でコンピューター科学教育に40億ドルを拠出することを発表しています。プログラミング教育の必修化は世界的な流れになっています。

また、プログラミング教育の必修化を推進するもう一つの背景は、IT(情報技術)人材の不足があります。IT関連ビジネスの拡大に伴って2030年には約80万人が不足すると言われています。(経済産業省2016. 6. 10)

<課題> 課題としては、適切なカリキュラムや教材の開発、授業時間の確保、そして最大の課題は、全国

約3万の小・中学校の子どもたちにプログラミング教育を実施する人材の養成や確保があげられます。

<まとめ>プログラミング教育は、子どもたちをプログラマーにすることが目標ではありません。今の小学生が大人になるころには、IT や AI(人工知能)の登場で、現在ある職業の半数以上がなくなると言われる中で、どんな職業についても、教養としてプログラミングを身につけておくことが大切であると考えられています。

(朝日新聞4月20日、6月2日参照)

災害時の安否確認について



9月17日に起きたニューヨーク市マンハッタン及びニュージャージー州シーサイドパークにおける爆発事件につきましては、皆さまのご協力により、本校関係者は無事であることが分かりました。

今後も同様の事件が起こる可能性がありますので、このような事件が生じた場合の安否確認に関しまして以下のように対応させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

災害時の安否確認

*災害やテロ等の事件が発生した場合、学校関係者の安否を確認する方法。

1 「被害状況の確認」

今回の事件のように、報道等で本校関係者が被害にあっている確率が低いと考えられる事件の場合には、事務所より全学校関係者にメールを発信し、本人を含め家族に被害があった場合のみ事務所に連絡をしていただきます。

2 「全員の安否確認」

邦人等の被害が報道されたり、大規模な災害やテロ行為で、学校関係者全員の安否を確認する必要性が生じた場合。

- ①全体メールを発信します。(同時にボイスメールも発信) 返信(安否情報)は各担任へ連絡してください。
- ②各担任は、安否確認を集計後、事務所に連絡します。(連絡はメールでも電話でも結構です。)